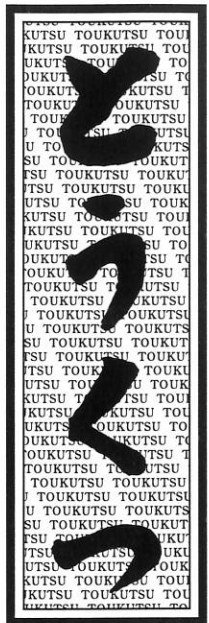


司会の松戸副会長より、定足数の確認(本人参加者13名、委任状45名、計58名で定足数を満たし総会は成立)の後、青木副会長より「本日は新型コロナウイルスの關係でご苦労の中、ご参加頂きありがとうございます。本総会の慎重審議をよ



令和2年6月17日(水)午後2時より 西村記念ホールに於いて定時総会が左記の通り開催された。

一般社団法人東靴協会 第八回 定時総会開催



一般社団法人
東靴協会
千代田区鍛冶町1-6-17
〒101-0044 ☎(3252) 5656
(7月号)

ろしくお願いいたします」と開会を宣言。
続いて栗原会長より「コロナの關係で各会議もできま

また、日本靴小売商連盟からも永年勤続10年表彰として、ゴトウ靴店の小黒みね子様。カラサワ靴店の阿部さとし様。石澤由紀様、橋本彰恵様。尚美堂の原口佳子様、吉永直子様6名が受彰した。
続いて定款により議長に栗原会長を選出し議事に移った。議長は議事録署名人に須藤常務理事と森理事を推薦し、承認を受け議事に入った。



と挨拶を行った。
続いて永年勤続者の表彰を、東靴協会から、勤続10年表彰としてアルプスシューズの宇田川寛様が受彰された。

シューフィッターの皆様へ
住所・勤務先等変更が生じた時は必ず協会までご連絡をお願いします

第一号議案

令和元年度事業報告 承認の件

矢代事務局長より資料に基づいて表記議案の詳細な説明を行った。

第二号議案

令和元年度収支決算書 承認の件

事務局田中氏より、貸借対照総括表、各正味財産増減計算書及び総括表を資料に添って詳細に説明を行った。

続いて、田中常任監事より決算は正確かつ適正に行われている、と監査報告を行った。ここで質問、ご意見を受け、満場一致で承認された。

第三号議案

令和二年度事業計画案 承認の件

矢代事務局長より表記議案を資料に添って詳細な説明が行われた。

第四号議案

令和二年度収支予算案 承認の件

事務局田中氏より資料に基づき各会計科目ごとに詳細な説明を行った。
議長は二号議案、四号議案の質疑を求め、異議無く満場一致で承認された。

第五号議案 その他の件

今回は特になし

続いて共助会の総会に移り、事務局より令和元年度の収支決算報告を資料に基づいて説明を行い、承認された。
矢代事務局長より補足として、「例年非常用飲料水と5年ごとに防災用品を送っていただきますが、本来は火災見舞いなどに積み立てていたものです。今回のコロナ關係で多大な影響を受けているので、ここからお見舞金を送ることと致しました。既に各店に送金したところですよ」と説明した。
終わりに石田先生より決算の講評をお話し頂いた。「平成元年より江原先生に代わり担当させていただいている石田です。よろしくお願いいたします。今期の決算ですが、過去3年分の資料を拝見しましたが、特に問題はないのですが、今後ビルメンテナンス等で資金も必要になってきます。キャッシュフローに注意して各種の事業を行ってください」と話された。
続いて、今回のコロナ関連の店舗向けの助成金、給付金の説明を頂いた。
最後に須藤常務理事より「皆様のお陰を待ちまして、定時総会は無事に終了することができました。これから協会発展のため皆様のご協力をよろしくお願いいたします」と閉会の挨拶を行い、総会は終了した。

大手靴小売りの決算

大手靴小売店舗の決算がF
W 6月号に左記の内容で掲載
された。

○エービーシー・マート
大型化、複合業態化を進め
52店の新規出店で増収に

A
B
C
マ
I
T

連結業績（2019年3月1日～2020年2月29日）								
	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%
2020年2月期	272,361	2.1	43,374	△1.3	44,325	△1.8	29,706	△1.9
2019年2月期	266,703	7.9	43,929	1.3	45,133	1.4	30,285	1.9
(注)包括利益2020年2月期 28,175百万円(0.8%) 2019年2月期 27,949百万円(△13.6%)								
個別業績								
	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%
2020年2月期	194,029	1.4	38,072	△0.8	39,554	△1.5	27,097	-0.3
2019年2月期	191,347	2.7	38,380	△0.8	40,162	△1.4	27,178	0.1

商品戦略では、カジュアル
ラインのスポーツシューズや
ファッションスニーカーの販
売に注力した。また都心部の
大型化を中心にスポーツアパ
レルや小物などの取り扱いを
拡大し、シューズとともに

○チョコダ
EC事業伸長も、減収減益に
子供靴は好調6%増

トータルコーディネートが可
能なMD展開を進めた。
また、スマートフォン向け
アプリの利用促進やデジタル
を活用した広告宣伝に注力し
た。店舗展開では、好立地の
商業施設やSCを中心に、今
期52店の新規出店をした。こ
の結果、期末の国内店舗は1
016店舗となった。
海外の店舗展開は、韓国43
店舗、台湾7店舗、米国2店舗
の新規出店を行い、期末店舗
数は、韓国259店舗、台湾
52店舗、米国6店舗となった。

連結業績（2019年3月1日～2020年2月29日）									
千	売上高			営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	
	2020年2月期	113,530	△4.2	△1231	／	△669	／	△1643	／
2019年2月期	118,568	△7.1	1,669	△72.8	2,266	△65.6	1,613	△65.2	
百	(注)包括利益2019年2月期△1,198百万円(-%) 2018年2月期 4,647百万円(△5.8%)								
個別業績（2019年3月1日～2020年2月29日）									
百	売上高			営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	
	2020年2月期	87,919	△2.9	△488	／	898	△74.7	△2	／
2019年2月期	90,522	△5.2	2,776	△49	3,552	△44.4	3,596	△26.1	

ファミリー層の来店促進の
ため、特に子供靴の販売に注
力した。キッズスペースの設
置、品ぞろえの拡充、TVCM
の放映、各地の子育て支援
プロジェクトへの参画など、
商品面、店舗、販売促進を連動
させ、子供靴の販売は前年比
6%増と好調に推移した。合
わせて店舗の商品鮮度向上を
目的に持ち越した在庫の値下
げ処分を積極的に実施した。
特性に合わせて人気のブラ
ンドコーナーを拡大し、重点
販売商品をクロスアップす
る売り場を推進した。
EC事業では「ZOZOT
OWN」に出店するなど、販
売サイトのマルチチャネル戦
略を推進し、販売額は前年比
18%増となった。
20店を新規出店、不採算店を
中心に38店舗を閉店。期末店
舗数は、1029店舗となった。

○ジーフット

改革推進中も、減収減益に
スポーツ売上は1.8%増

当期は「商品の改革」売り場
の改革「人の改革」の3つの改
革を軸とした経営戦略を進め
た。

商品の改革では、健康的で
履きやすい魅力的な靴を、
リーズナブルに提供し続ける
ことに注力し、スポーツ・カ
ジュアルを基軸とした品ぞろ
えを充実させ、客数の回復と
売上げ確保を図った。
商品在庫の適正化により、

在庫効率の向上と原価率の改
善を図った。これらの取り組
みで、スポーツ靴の売上げは
前年比1.8%増と堅実に推移
し、商品在庫は前期末比27億
3200万円削減した。

連結業績（2019年3月1日～2020年2月29日）									
ｼ	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		
	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	
ｲ	2020年2月期	89,089	△6.2	△2,000	／	△1,994	／	△4,453	／
	2019年2月期	95,013	／	351	／	388	／	△1,478	／
ﾌ	(注)包括利益 2020年2月期 △4,941百万円(-%) 2019年2月期 △1,693百万円(-%)								
個別業績（2019年3月1日～2020年2月29日）									
ﾂ	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		
	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	
ﾄ	2020年2月期	87,127	△6.2	△2,005	／	△1,994	／	△4,543	／
	2019年2月期	92,863	△4.5	288	△87.1	327	△85.7	△1,694	／

メガスポーツとの共同出資
で、イオンスポーツ商品調達
（株）を設立し、スポーツ・子供部
門の商品企画力・調達力向上
と品揃え改革を行っている。
売り場の改革では商品素
早く提案できる足型計測機の
設置や、社内資格の「フィッ
ティングアドバイザー」取得
も奨励している。
デジタル面では、アプリや
ショッピングブログによる集客力
の向上を図り、ECサイトと
リアル店舗との連携の推進も

○アマガサ
卸の大幅減で減収減益
卸売り事業

専門店および香港向け海外
販売が前年を大きく下回った。
販売管理費は減少したものの、
売上げのマイナスが大きく、
営業利益も前年を下回った。
小売業
マルイファミリー溝口店、
沖縄浦添PARCO CITY
店を出店した一方、JELLY
BEANS
ピオレ明石
同金沢百番
街店、同アト
レ秋葉原店
を閉店した。
期末現在
の直営店舗
数は、36店
舗となった。

推進してきた。
アスビーイオンモール大阪
ドームシティ店など15店舗
を出店、不採算店舗など60店
舗を閉店、期末店舗数は88
9店舗となった。

アマ ガ サ	連結業績（2019年2月19日～2020年1月31日）								
		売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
		百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%	百万円	昨対%
	2020年1月期	4,803	△9.1	△266	／	△275	／	△254	／
	2019年1月期	5,281	△10.5	△156	／	△173	／	△825	／
	(注)包括利益 2020年1月期 △269百万円(-%) 2019年1月期 △849百万円(-%)								

EC事業
自社WE
B販売およ
び通販サイ
ト向け販売
ともに、上
期は好調に
推移したが、
下期の販売
は落ち込ん
だ。

**新型コロナウイルスによる
経営への影響(6月調査)**

商工会議所が行っている中小企業経営調査によると、新型コロナウイルスによる経営への影響について「影響が続いている」は62.9%と5月調査から2.6ポイント減少し、「経済活動の停滞が長期化すると影響が出る懸念がある」と合わせ93.0%となった。

また、雇用・採用関連の対応について、「雇用調整助成金を検討・申し込む」が70.7%と最も多く、4月調査から5.9ポイント増加した。「従業員の人員整理を検討・実施」は3.9%と低く、0.4%減少した。

影響が続いている企業が6割を超え依然として高水準となり、緊急事態宣言は解除されたものの、今なお多くの企業で影響が生じている。経営の厳しい中でも、「従業員の人員整理を検討・実施」は約4%と4月調査に続き、低水準にとどまった。影響が長期化する中、助成金など活用し、雇用を守ろうとする中小企業の姿勢が伺える。

感染防止と「新しい生活様式」への取り組み進む

感染防止と事業継続の両立にむけた対応について「対応を取っている」が87.0%、「特

別な対応は取っていない」が13.0%となった。

対応の具体的な内容としては、「店舗・オフィス等の定期的な消毒・換気、従業員・顧客の検温、手洗い、手指等の消毒徹底」が53.3%で最も多かった。次いで、「会議の開催頻度・時間・人数の削減・制限」が36.7%、「出張の原則禁止・制限」が32.8%、「営業時間の短縮・営業日数の削減」が31.6%となった。

9割近くの企業が感染防止と事業継続の両立に向けた対応を実施しているという結果となり、中小企業においても「新しい生活様式」への取り組みが進められていることが読み取れる。

ただし、会議・稟議等のオンライン化やテレワーク等の取り組みは全体の2割以下にとどまった。企業からは、これを機に働き方を変えていきたいという前向きな声がかかる一方、感染防止対策でコストが増加している、ソーシャルディスタンス確保を徹底すると従来のビジネスモデルでは採算が取れないといった切実な声も聴かれた。

先行き見通し

緊急事態宣言の解除を受け、営業を再開した小売業・飲食業などで客足が戻りつつある、中断していた公共事業の再開の動きが出るなど、一

部で下げ止まりの兆しがみられるが、一方で依然として遠出を避ける消費者が多く、宿泊業をはじめとする観光関連では低調な動きが続く。

また、製造業では、取引先の過剰在庫や生産調整に伴う受注減に加え、営業自粛によるビジネスチャンスの喪失など、影響が拡大しているとの指摘も多く、中小企業の経営は持ち直しの兆しはみられるものの、厳しい状況が続く。

また、自粛ムードの緩和を背景に、夏季商戦や観光需要の拡大に期待感がうかがえるが、第二波・第三波への警戒感の中、新たな生活様式に対応したビジネスモデルへの転換に迫られる企業や、サブライチエーション・生活活動への影響拡大を懸念する企業も多く、先行きに対し慎重な見方が続いている。

**小売業販売5月
12.3%減**

新型コロナウイルスの感染拡大で深刻な影響を受けた小売業は、4月を底に改善の兆しが見え始めた。経済産業省が6月29日に発表した5月の商業動態統計(速報)によると、小売業販売額は前年同期比12.3%減の1兆650億円、4月の同13.9%減からわずかに上向いた。

前月(28%減)より大幅に拡大した。(読売新聞より)

**日本靴連盟・
第64回総会**

表記総会が6月19日(金)午後2時30分より西村記念ホールに於いて開催された。

司会の栗原監事より本日参加者13名、委任状8名により、本総会の有効を報告。武川副会長より開会の挨拶に続き、笠井会長が挨拶を行い議長席についた。続いて議事録署名人に藤原氏、遠藤氏を選出、議事に入った。

第一号議案**令和元年度事業報告及び
収支決算書報告について**

事務局より事業報告、決算報告。山田監事より監査報告がなされ、承認された。

第二号議案**令和2年度事業計画及び
収支予算書案について**

事務局より事業計画、予算案資料の説明を行い承認された。

第三号議案・その他

令和2年度「靴の記念日」式典開催地について、神田明神を仮予約し、後日検討し結論を出すこととする。

理事会・支部連絡会

だより

令和二年六月二十三日(火)

午後二時 西村記念ホール

出席者19名

松戸副会長の司会で開会。

始めに会長より「新型コロナウイルスの關係で理事会も開催できませんでしたが、久しぶりにお会いできてうれしく感じます。コロナの感染防止から、東京都では営業自粛を行いました。しかしSCの閉店や時間短縮営業等で大変大きな影響が出ました。

数字で見ると、4月の家計調査ではマイナスイナス11%ですが、履物はマイナスイナス60%でした。都内の靴店ではマイナスイナス80%の店もあり、それぞれ影響があると思います。5月6月になり売り上げも徐々に戻りつつあるように感じますが、季節商品の売り上げも影響しています。

国や都では、各種の助成金のメニューがあるようですので、経理士さんと相談するなど知恵を出し合って乗り切っていきたいと思います」と挨拶。議事に移った。

一、東靴協会

70周年アンケートについて

矢代事務局より、表記のアンケートは現在32社から提出されています。全会員は93社ですので、この記念誌では全社の紹介をしたいと考えております。次回の理事会までに提出をお願いしたい、と提出要請を行った。

二、夏期レクリエーション

中止について

松戸副会長より本年の夏期レクリエーションは、銚子方面と伊豆山方面の2コースの提案がありましたが、委員会での検討の結果、コロナ禍のため、残念ですが中止とすることにいたしました。

来年はぜひ行いたいと思いますので、ご期待ください、と説明した。

三、8月の中堅社員研修

中止について

矢代事務局より、表記の件ディスプレイ講座について進めておりましたが、密になる可能性が大きく中止とさせていただきます、と報告した。

四、「靴まつり」の実施内容

について

田中氏より、9月に例年開催している「靴まつり」は集客イベントですが三密をそれぞれの店舗で対応頂き、実施

する予定で進めています。方法は例年通り、店舗でお渡しする応募はがきで抽選を行い5千円のお買物券を進呈するもの。今回は靴産業150周年に際し応募はがきのデザインをそれに沿い作成した。8月中には各店舗に配布予定、と説明した。

五、FHAシューフィッター

養成講座(東京)について

矢代事務局より説明。表記講座が、7月15(水)〜17(金)に開催されます。参加希望者は早めに事務局まで連絡下さい、と説明。

六、その他

本日の理事会終了後に、70周年記念誌掲載の「会員インタビュー」を行います。ぜひご参加下さい。既に協会70周年の年表はできていますので、参考にして思い出話などお願いいたします。

続いて今後のスケジュールを説明し、終了した。

ナイキ850億円赤字
コロナ休業

米国スポーツ用品大手ナイキが6月25日発表した2020年3〜5月期決算は、最終利益が7.9億ドル(約850億

円)の赤字だった。前年同期は9.9億ドルの黒字だった。新型コロナウイルスの影響で多くの店舗を休業したことが響いた。

売上高は前年同期比38%減の631億ドル(約6800億円)と落ち込んだ。

インターネット通販は75%増と増えたが、実店舗の減収を補いきれなかった。(読売)

靴専門店・大手三社の

直近3か月売上推移

緊急事態解除により、来店客が回復し、前年より土・日が少なかったが、売り上げ増となった。立地別では、大都市の繁華街の店舗では、訪日外国人がなく、人出も完全には戻っていないが、売り上げは落ち込んだものの他の店舗では全体的に好調に推移した。(チヨダ)

東京都中小企業景況調査(5月)

業況：4か月ぶりに上向き
見通し：回復期待高まる

卸売業			業 況					
対象数	回答数	回答率	5 月		今後3か月間 見 通 し (当月比)			
			悪い	良い	悪い	良い		
875	410	46.9%	-100	0	100	-100	0	100
衣料・身の 回りの品	1.男 子 服							
	2.婦人・子供服							
	3.靴・履 物							
	4.かばん・袋物							
	5.装身具・身の回り品							

小売業			業 況			
対象数	回答数	回答率	5 月		今後3か月間 見 通 し (当月比)	
			悪い	良い	悪い	良い
875	328	37.5%	-100	0 100	-100	0 100
衣料・身の回り品	1.呉服・服地・寝具					
	2.男 子 服					
	3.婦 人 服					
	4.子 供 服					
	5.靴 ・ 履 物					
	6.かばん・袋物					
	7.雑貨・身の回り品					
	8.時 計 ・ 眼 鏡					
	9.ジュエリー・製品					

社名		4月	5月	6月
チヨダ	全社売上	-43.4	-24.4	5.7
	客数	-43.3	-22.9	5.7
	客単価	-0.3	-2.0	0.0
	店舗数	1035	1034	1033
ABCマート	全社売上	-45.2	-4.2	-0.8
	客数	-44.2	-4.7	3.6
	客単価	-1.7	0.5	-4.3
	店舗数	1022	1027	1034
Gフット	全社売上	-65.6	-36.5	-5.5
	客数	-65.0	-31.9	-3.5
	客単価	-1.8	-6.7	-3.6
	店舗数	874	870	870

前年と比べ週末が1回少ない曜日並び。今月は、ほぼ全店で営業再開となったが、近場での消費傾向が強く、混雑を避け、郊外店やオンラインの売り上げが伸長した。商品ではスポーツシューズが売り上げを牽引し、季節商品のサンダルや学校再開でキッズシューズが好調だった。(ABCマート)

ほぼ全店で営業が再開となり、ショッピングモールや郊外の店舗は前年を上回り好調だったものの、都市部の路面店では大幅な減少となった。商品別では子供靴が好調だった。(ジフット)